



日刊動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号 (動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2939 番
(公) 043 (222) 7207 番

98 4 27 No.4775

動労総連合 (四月二日 千葉市民会館)

第十一回定期委員会開催

動労総連合は、四月二日、一三時から、千葉市・千葉市民会館において、「第一二回定期中央委員会」を開催し、九八春闘及び差別・不当労働行為一掃の闘い、九八・三ダイ改阻止闘争を中心とした闘いを総括を行なうとともに、決戦局面に突入した国鉄闘争勝利に向けた闘いの強化をはかるとともに、有事立法制定阻止、労働法制改悪阻止をはじめとした当面する闘いの方針を決定した。

●質疑で出された主な意見

◆三月二三日姫路総合鉄道部でストに突入し、職場の仲間達からも激励を受けた。(西日本)
◆運輸士登用差別地労委の闘いを全力で闘っている。(水戸)
◆JR貨物という赤字会社を作った分割・民営化が間違いだったことがますますはつきりしてきた。(千葉)
◆強制配転粉砕の署名で若手にも大分協力してもらった。JR貨物との受委託解消によるDL業務の問題では、手当ても付かず不満が出ている。(同)

労働者が反撃に 起つきっかけ!

中央委員会は、平岡副委員長(西日本)の開会あいさつで始まり、議長に荏司委員(千葉)を選出して議事が進められた。冒頭、中野委員長は、「一〇四七名をめぐる闘いが分割・民営化から一〇年を超えて最大の決戦局面に突入した。五月二十八日には国労の九州・北海道事件の判決が出されるなど、国鉄闘争を一気に解体しようという反動が強まっている。今、全産別に分割・民営化型の攻撃が吹き荒れている中で、一〇四七名の闘いが、労働者が反撃に立ち上がるきっかけになる」と、国鉄闘争の勝利へさらに決起することを訴えた。

布施書記長からの当面する闘いが提起された後、質疑応答が

4月24日号は、
四七四号の回で
お読みください。

脱退強要事件 (四月二七日 千葉地労委)

第六回審問開かる

四月二七日、一〇時より、千葉地労委において、「木更津支部脱退強要事件」の第六回審問が行なわれ、本件不当労働行為の張本人である小関元支区長に対する組合側からの主尋問が行なわれた。

支区長の立場で 脱退強要!

小関元支区長に対する尋問では、小関元支区長が「安田君を脱退させたのは組合活動の一貫」という主張をしているにもかかわらず会社側の弁護士を付けていることを糾すと、「(動労千葉からの)申立書が届いた時に支社に相談した」「組合には相談していない」「支社に相談したときに色々手配してくれた」「(弁護士の手配を)組合に話したことはない」と証言するなど、組合活動の一貫などということ

が全くの口実で、支区長という立場で本件不当労働行為が行われたことがいよいよはつきりした。

業務にからめて 脱退を強要!

つぎに、入脱退届けを手渡した問題については、「(転換教育に伴う)入寮届けを渡す直前に袋の中に入れた」「一緒に渡

せば入脱退届けを書いてくれると思った」と証言し、結局、転換教育という業務上の問題に脱退強要をからめて行なったことがますます明らかになった。

また、現場における支区長の権限は「希望を支社に具申する程度」にとどまるなどと主張している問題については、「(支区長の権限に入らない労働条件の内容は)思いつかない」と証言するなど、支区長の権限が異動や賞罰などほとんどに大きな影響を及ぼすことをはつきりさせて、小関元支区長に対する組合側の主尋問を終了した。

次回審問では、小関元支区長が、動労千葉からの申立てが行なわれたときに相談した千葉支社勤務課・椿課長(当時)に対する会社側の主尋問が行なわれる予定となっている。

本件脱退強要事件も山場を迎えている。JRとJR総連の結託体制を粉砕し、差別・不当労働行為一掃に向け、本件の勝利に向けて傍聴に結集しよう。

木更津支部脱退強要事件
とき 五月一八日(月)

一〇時から
ところ 千葉地労委
各支部から傍聴に結集しよう!

夏季物販会議開催 四・二三

物販闘争で全国の労働者に団結を訴えよう!

四月二三日、一八時より、動力車会館に於いて、「九八夏季物販支部担当者会議」が、開催された。

冒頭中野委員長より、「九七冬の物販は、五〇〇〇万をギリギリで突破した。夏季物販は、これを超えなければいけない。今の情勢は、組対法・盗聴法などで労働組合活動を制限し、労基法を改悪し、労働者を奴隷のようにコキ使えるようにしていかないと資本家たち自身が、もはや食ってりけない状態までできている。これからますます労働者に対する弾圧は激しくなり、戦後われわれの先輩達が勝ち取ってきたあらゆる諸権利をすべて剥脱しようとしている。動労千葉は、この物販活動を通して、全国の労働者にさらなる団結を訴えていかなければならない。夏の物販は、組合員総行動で、奮闘してほしい」と、会議に参加した組合員に檄を飛ばした。続いて白井協販部長より、夏期物販の方針が提起され、その後、最大の正念場を迎えている清算事業闘争を代表して、当該の高石執行委員より「この闘争は負けるわけにはいかない。勝利するまで共に闘います」と決意を訴え、乾杯し、大いに盛り上がりつつ会議は終了した。

新たな10万人合理化粉砕!! 労働運動の新たな潮流めざし全国へはばたこう!!